

手作りカメラで
写真の原理学ぶ

九工大でイベント

手作りのカメラで写真撮影に挑戦する科学教室が23日、飯塚市川津の九州工業大情報工学部であった。市内の小中学生を中心に約60人が参加し、カメラ作りを通じて写真の原理を学んだ。

九工大技術部の荒川等技術専門職員が講師を務め、物体に反射した太陽光がレンズに集まり光の像ができることなど、カメラの仕組みを説明。子どもたちはシート型のフレネルレンズや黒画用紙、感光紙などを使い、長さ約25センチの箱型カメラを作った。

完成後は学内で、建物に向けてレンズの焦点を合わせて撮影。20〜30分後に写真が出来上がった。目尾小5年の丸毛景介君(10)と

古河瑞葵君(10)は「撮影にこんなに時間がかかるとは知らなかった」と驚いていた。

教室は九工大理数教育支援センター飯塚分室が2013年から、テーマを変えて年4回開催している。(諏訪部真)



学生に手伝ってもらいながらフレネルレンズを使ったカメラを作る子どもたち